

八咫鳥やたがすは古事記などの建國神話に神の使いとして登場する鳥である。神武天皇東征の際、熊野（和歌山県）から大和（奈良県）への道案内を務め、熊野三山の神紋とされている。道案内した熊野の豪族に与えられた称号という説もある。

熊野三山の一つ「熊野速玉大社」の摂社「神倉神社」をルーツとし、八咫鳥を家紋に持つIT企業経営者が、昨年夏の消費増税政局で、野田首相（当時）の先導役として永田町を飛び回っていた。松下政経塾2期生の神蔵孝之氏で、1期生の野田氏とは20年以上の付き合い。毎日のように連絡を取り、自民党などとの調整に動いた。神蔵氏によると、昨年8月、自民党の谷垣禎一総裁（当時）と「近いうち」の衆院解散で合意した時、野



長次郎 政治部
公一 望月

こずはいスガラスヤ

田氏は通常国会会期末の9月解散を決意していた。しかし、「国民の生活が第一」の小沢一郎元民主党代表らが主導して消費増税反対などを理由に提出した首相問責決議案に自民党も同調し、参院で可決したため、野田氏も解散を見送ってしまったという。

「問責決議で流れが変わってしまった」と悔やむ神蔵氏。12月の衆院選で野田氏率いる民主党は惨敗。自民党は圧勝し、新党「日本維新の会」も議席を伸ばした。9月に解散・総選挙だったなら、もう少し違った結果に、という思いがある。八咫鳥は太陽の化身とされる。民主党は24日、党大会で党綱領や衆院選総括を決定したが、党内には「抵抗野党」化を望む声も多い。党再生の道筋は堂々と現実的な路線を歩む中でしか照らし出されないだろう。